



村尾明利 議員

地方創生の町版総合戦略の策定プロセスは

町長 町民に幅広く意見を出してもらって
様々な会議を計画



問 町の「地方創生」の推進は、町の「総合戦略」にかかっており、町民自らが町づくりに対する当事者意識を醸成し、策定できる事が大事だ。どのような対応、作成プロセスを考えているか。

答 総合戦略策定は、若者や子育て世代、起業家をはじめ、産、官、学、金、労の様々な立場の意見を聞いて行う。20代30代の様々な業種の方々に意見を聞く地域若者戦略会議（仮称）を立ち上げる。また、総合戦略策定審議会、庁内推進会議とは別に役場内においても、若手の職員によるプロジェクトチームを結成する。また、8月頃をめぐりに各ワーキングから政策提案の発表をはじめ、合併から10年とこれからの10年を語る町民100人未来会議（仮称）を開催し、町民と一緒に考えてこれからの町づくりを考える場を設ける。

問 すでに総合戦略づくりに乗り出した自治体もあり、町のホームページで提案書の提出を呼びかけるなど様々な手立てを進めているが、本町においても事業案等広く公募する考えはないか。

答 総合戦略では、町の特色を生かし地域の実情に沿った計画を策定し、効果の高い施策を集約的に実施していく必要がある。そのためには様々な提案やアイデアを広く募集する事も必要で、町のホームページ等の募集も行いたい。

問 青木實三郎先生は、明治十八年に大馬木に生まれ、明治四十四年馬木小学校に赴任し、馬木児童に図画教育を行う過程で「想画」を生み出し、卓越した信念のもと日本はもとより世界の美術教育を愛するに至る偉業を成した人物である。馬木の

青木實三郎先生顕彰事業実行委員会では、「きらり輝く地域づくり事業」により一連の顕彰事業や顕彰碑建立を行ってきた。顕彰活動は、図画コンクール、児童画展、企画展、交流事業、資料整備、講演会等を行い、図画コンクールは三年間町内全小中学校に呼びかけ毎年九百点内外の応募があった。こうした顕彰事業の一端を町として永続的に継続できないか。

答 これまで行われてきた図画コンクールや児童画展、資料整備は、各方面から協力を得ながら継続していきたい。企画展や交流事業、講演会も機会を捉えて実施したい。

問 高田小学校において、地元住民や教育振興会、PTAから亀高小学校に統合するよう要望書が議会に提出された。統合する際の基準にすべてマッチしているように思えるがどうか。生徒数、学級数などが高田小学校と同じような状況に高尾小学校もある。これをどう考えているか。

答 学校規模の適正化に関する文科科学省の基本的な考え方にはマッチしていると考えられる。校区住民の意思を尊重し、最終的には教育委員会で決定されると思っている。



10周年を期に道路改良が待たれる細越峠